

地域の癌患者支える薬局

すばる薬局(品川区)



すばる薬局外観

東京都品川区にある「すばる薬局」は8月1日付で専門医療機関連携薬局の認定を取得した。専門医療機関連携薬局の認定を取得しているのは、大手調剤薬局チェーンや癌治療を行う癌幹病院の門前薬局に偏っているのが現状。小規模で癌幹病院から離れた場所に立地する薬局が認定を取得するのは珍しいケースだ。地域に根付いた薬局として癌で苦しむ患者の不安に耳を傾けている。

小規模でも連携薬局に

区薬の支援受け認定取得

すばる薬局は、2016年に開局し、JR大森駅から徒歩10分の場所に立地している。少し歩けばオフィス街だが、団地やマンションなど住宅地の側面もある。入居しているビルは2階には小児科のクリニックがあり、小児科関連の処方箋を多く応需している。

すばる薬局を開局したのは原山眞理子氏。薬剤師は原山氏を含め3人体制となっている。専門医療機関連携薬局は、癌などの専門的な薬学管理が必要な患者に対して、他の薬局や医療機関と連携しながら、専門的でより高度な薬学管理や調剤に対応できる薬局と位置づけられている。原山氏は品川区薬剤師会副会長を務める。認定薬局制度が創設される前から、癌医療の地域連携で薬局がどうあるべきかを考えてきた。18年には加藤肇区薬局長と一緒に品川区がん研究会を立ち上げた。

専門医療機関連携薬局の認定基準には、高いハードルが課されており、東京都でも取得しているのはごくわずかの薬局に限られている。原山氏は「認定を取ることに関心があつたわけではない。調剤薬局チェーンでもなく、癌幹病院の門前薬局でもない、開局して5年の薬局でも、十分にできることを若い世代の薬剤師にも見せたかった」と話す。加藤会長をはじめとする品川区薬剤師会のバックアップを受けて、8月1日に認定を取得することができた。現在、6人の癌患者に

関する薬学的管理を行っている。専門医療機関連携薬局の認定基準には、「過去1年間のうち、処方箋を受ける癌患者の半数以上について、癌治療を行う医療機関への情報共有を行った実績」が要件となっているが、すばる薬局では癌の専門病院から離れた場所に立地しているため、癌患者の処方箋を受けることはほとんどない。癌に対応して

数以上について、癌治療を行う医療機関への情報共有を行った実績」が要件となっているが、すばる薬局では癌の専門病院から離れた場所に立地しているため、癌患者の処方箋を受けることはほとんどない。癌に対応して

くれば薬剤師が癌治療を聞きつけて、患者が薬学的管理を求めているのがほとんどだ。抗癌剤治療では、通常3~4週を1サイクルとする投与期間と休薬期間が定められているが、その間に発現した副作用が

あれば薬剤師が癌治療を行った医療機関にフォローアップしている。副作用への対処で医療機関に処方提案を行う場合もある。患者が定期的に来局し、薬局が難しければ薬剤師が電話で聞き取りを行う。

開店時間外の相談、休日・夜間の対応はこれまでも当たり前実践してきた。原山氏は一人暮らしの高齢患者からは病態急変時のために家の鍵を預かっているという。何かあったときには深夜でも電話してくれ、と伝えている」と言う。24時間対応で患者を診る心構えと責任が必要になる。

原山氏は薬剤師になって37年目になる。癌を身近に感じたのは大学生のとき。母が乳癌を発症した。薬剤師になって癌で苦しむ患者に対応していく中で、真剣に学びたいと思い、昭和大学病院薬剤師部の門を叩いた。現在ではがん研有明病院副薬剤師による研修を受け、薬物療法や副作用評価など癌の専門的教育、地域連携の重要性について学んだ。

「認定を取ったからといって活動は何も変わらない」としつつも、「品川区がん研究会でどんな取り組みを行っているか継続的に発表していきたい」と述べ、癌患者を支える薬局が一軒でも多く増やせるよう地域の中で底上げにつなげたいと話

作成したチェックシート

抗癌剤の作用動画で説明

抗癌剤は新しいタイプの薬が続々と登場しており、患者によっては主治医に治療内容を説明してもらっても、その場で理解できず薬剤師に聞いて確認することもある。原山氏は患者が納得して治療を受けられるよう、医師による治療内容について分かりやすく説明を行っている。

その一環として、抗癌剤が癌細胞に作用するまでのメカニズムを理解できるシミュレーション動画を独自に作成した。タブレットPCを患者に見せながら

説明し、動画は患者が自宅でも見られるよう患者のメールに送付している。複雑な作用機序を持つ抗癌剤が登場しても、動画だと視覚的にイメージできるため、患者から分かりやすくと評判だ。

癌共生社会における薬剤師が担う役割は、患者がどう生きていきたいのかに耳を傾け、悩みや不安に寄り添うこと。専門医療機関連携薬局では、高度な薬学的管理に対応していく重要性が強調されているが、原山氏によると、薬剤師への相談で多いのは治療に関するこ

とではなく生活上の不安だ。例えば、「自分が癌になったら、子どもも癌にならないかが心配」「家族に経済的な心配をかけたくない」「普通の日常生活を送れるようにしたい」など様々ある。長く生きることも、自分らしく人生の

最期を終えるためにも十分な準備をしたいのか「終活」の相談も多いという。

患者のサポートに必要なのは人間としての経験である。原山氏は積極的に地域の行事に参加する。そのほか、東京都パドミントン協会審判委員として、学習塾講師と

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を



原山眞理子氏

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

生活する不安も支援を

KOKANDO 解熱鎮痛薬 **ロキソプロフェン錠「クニヒロ」**

頭痛、生理痛に

ロキソプロフェン錠「クニヒロ」は、プロスタグランジンの生成を抑え、痛みや熱に効果をあらわすロキソプロフェンナトリウム水和物を成分とした錠剤です。

第1類医薬品

皇漢堂製薬株式会社 尼崎市長洲本通2丁目8番27号 TEL 06-6482-5115(代)

薬局業務トータル支援システム くすだま **KUSUDAMA**

地域連携薬局で活躍される薬剤師の方に!

トレーシングレポート 在宅の報告書も簡単に作成!

処方も薬歴も在宅も、全てKUSUDAMAにお任せください!

株式会社ズー 〒386-1211 長野県上田市下之郷字浅間原813-12 TEL 0268-37-1531(代)